

佐原農園(株) 代表取締役

佐原 範 靖 さん

明日へ向かって駆ける

農業法人の経営者は語る

「地域特産の伏見とうがらしの周年栽培と、高品質を維持し、お客様に選んでもらえる野菜作りを続けたい」と経営方針を話すのは、宇治市内で伏見とうがらしを栽培する佐原農園(株)代表取締役の佐原範靖さん(30)。

2015年10月に法人を設立。現在8人の従業員と共にブランド京野菜生産の一翼を担う。

佐原農園ではハウスと露地あわせて64㍎で伏見とうがらしを中心に、一部万願寺とうがらしを生産する。地域のトウガラシ農家では規模が大きく中心的存在。通常の土耕栽培の他、土を使わないロックウール栽培を行う。地域の農家でも4件しか採用していない栽培方法だ。他に2畝で水稻を、1畝で伏見とうがらしを含む飲食店からの要望を受けた少量多品目の野菜を栽培

する。

「農を通じて食を豊かにし、会社を巡り関わる全ての人たちの幸せを追求する」と話す佐原さん。農業法人は農作物を作るメーカーと考え、法人設立当初から積極的に従業員を募集し、経営規模拡大を図ってきた。アットホームな経営で、従業員の意見を取り入れながら栽培方法の工夫を重ねている。

将来の目標は「55歳までに年間売上を20億円ぐらいにしたい」と大きい。「これまでに支えられ、お世話になった多くの人たちに喜んでもらえるためには、これぐらいの規模拡大が必要」と断言する。

農家の6代目だが、今も現役の父親とは経営を分離し、自らの理念に基づいた農業経営を進めている。「品質に

はこだわりがある。自信をもって、おいしいと言われる野菜を作りたい。それがやりがいにもつながる」と、直販などを通じて消費者の声に耳を傾ける。また、野菜のロス削減にも取り組み、地元の加工業者と連携して規格品外となった完熟の赤トウガラシを使ったりケチャップやピューレを開発し販売。販売する商品には、自社のブランド「京都さほら」と銘打って販売する。会社や異業種交流などの集まりには積極的に参加。「そこで新たなビジネスが生まれれば面白いし、考え方の異なる人と話すのも楽しい。意欲的な人に接すると自分もモチベーションが上がる」という佐原さん。新たな挑戦への意欲は高まるばかりだ。

.....

■法人所在地 宇治市槇島町一ノ坪153番地。(電)0774(22)4537。

■法人概要 2015年10月設立。役員1人、従業員8人(パート含む)。経営面積 伏見とうがらし64㍎(露地を含む)、野菜1畝(20種ほど少量多品目を栽培)、水稻2畝。農業機械 トラクター2台、田植え機1台、コンバイン1台。鉄骨ハウス2棟、パイプハウス1棟。

▶ ハウスで育つ伏見とうがらしと佐原さん



選ばれる野菜作りを